

液状化現象により多量の泥水が噴き出す

ワールド記念ホール

1 施設の被害状況

地震にともなう液状化により、地下1階の器具庫の全面にわたって約40～50cm程度の高さまで泥の海となった。同じく器具庫内のピットと奈落のピットの内部にも多量の泥水が噴き出て深さ約2mまでに達した。また、1階「アリーナ」の天井部の放送スピーカーシステムが落下したためにアリーナの木製の床面が直径3m程度にわたって陥没、破損した。

建物の周囲についても液状化により、周囲の建物の基礎以外の部分が30～50cmほど地盤が沈み、その地盤沈下によりホールに至る階段の使用が一部不能となった。地震後の2月上旬に各設備の点検を実施したが、その結果は異常なしであった。

2 関係者の初期対応

地震当初は無人であったが、その後、徐々に職員が出勤し、地下1階の液状化にともなう泥水の噴き出しに関しては、職員総掛かりで器具庫内の泥水をかい出した。また、ピット内に浸入した水には、電動の水中ポンプ2台で排水を行った。各ピットの泥水も水中ポンプによる排水作業を実施しているが、いまだ水が湧き出ているために、現在も排水作業を続けているにもかかわらずピット内では、約1.6m程度の深さまで浸水している。(平成7年5月現在)

3 教訓

埋め立て地域などの施設は液状化対策が極めて重要である。